

# 手と手と手

岡山発 国際貢献

ス・ファン・ヒンケル(左)は笑顔で語った。「岡山にいろんな教育者が知り合う場が生まれたことが大きな進展。一緒に協働していく力も育ちつつある」

## こだわる理由

スペインのバルセロナ、カナダのトロント、仙台広域圏など世界の六地域とともに、岡山市は昨年六月、国連大学(東京)から認定を受けた。持続可能な開発のための教育(ESD)を推進する地域拠点。RCEと呼ばれる。認定地域は現在、十二地域に増えている。

RCE岡山の事務局は岡山市役所に置かれている。この一年、環境と国際理解をテーマに、学校や公民館、NGO(非政府組織)など四十六団体を重点組織に指定。活動費の助成や指導者の研修などを実施してきた。だが、順調に広がっているわけではない。

「浸透には時間がかかるだろうが、私は岡山におめでとこと言いたい」。RCEの主唱者である国連大学長のハン

由をヒンケルはこう言う。ボトムアップでESDを普及するという国連戦略の背景には、国連中心主義の失敗があったといわれている。

は、地球サミット(一九九二年、リオデジャネイロ)で採択された行動計画に盛り込まれている。ユネスコが中心となって取り組んだが、国連機関から各国政府に降ろしていくトップダウンで

そもそもESDの概念



小中学生や教師、地域住民が、川の小さな生物を真剣に観察した「足守地区環境学習会」

は普及しなかったのだ。国連大高等研究所の上席研究員・鈴木克徳(左)は、「構想の一部は岡山で必要性を確信した」と明かす。

まった。「足守地区環境学習会」。中学生らが水質や生物を調査。透明なスジエビやヤゴ(トンボの幼虫)に歓声が上がった。

〇四年一月の「第十回おかもや国際貢献NGOサミット」。鈴木は、環境教育に取り組む岡山市のある中学教師の切実な声を聴いた。「日ごりの活動や成果を評価してもらいたくても、地域には相談する場所さえない」

RCEは、地域の大学などが中心となって、伝統的な知識や科学的な知識を集め、地域に助言や指導を行う「知識ベース」という機能の構築も目指している。

足守中には、活発だった環境教育が教師の転勤に伴って低迷した苦い経験がある。学校も地域も一緒に活動できれば、地域が活性化し、子どもの学習の質も上がる」と、小野は考える。

## 芽吹 き

四月二十二日、岡山市北西部、足守川の河原に小中学生と教師、住民ら約四十人が集

この日の学習会に続き、シンポジウムや空き教室で地域の活動を紹介する「エココミュニケーション」なども計画中。ESDは少しずつだが芽吹き始めている。(敬称略)

## ボトムアップ

# 失敗に学んだ国連戦略